



# 0歳時で特に気をつけたい病気は？

## 0歳時の疾病別発症割合

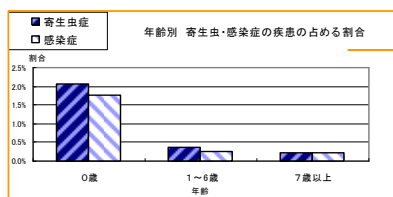
0歳の犬の給付金請求データをもとに、どのような疾患を発症しているかを調査したところ、**53.2%を消化器・皮膚・耳の疾患**が占めていることがわかった。これらの疾患は、年齢を重ねてもそれぞれ10%以上の大きな発症割合をしめる病気であるので、**初めてわんちゃんを家族に迎える際には**その旨をあらかじめ理解し、ホームドクターを早めに見つけておきたい。**続いて、0歳で多い疾患は筋骨格系疾患**である。他にも、**呼吸器疾患・寄生虫疾患・感染症は、1～6歳に比べて0歳で高い割合を占める**疾患であった。

### 寄生虫…2.1%

コクシジウム症、回虫症、ジアルジア症など

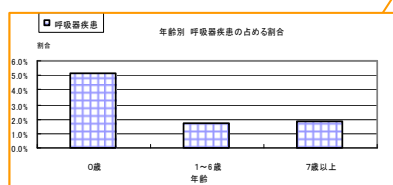
### 感染症…1.8%

ケンネルコフ症候群・犬伝染性呼吸器症候群など

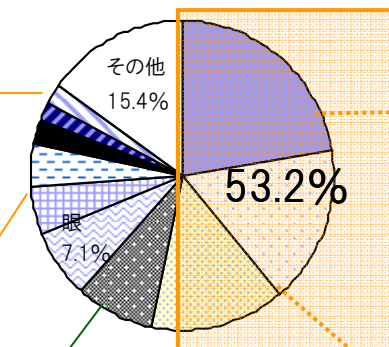


### 呼吸器…5.1%

気管炎/気管支炎、感冒・カゼ、鼻気管炎など

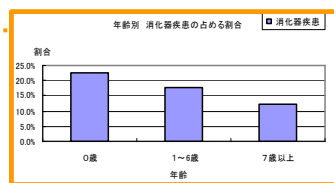


### 0歳時における疾患の内訳



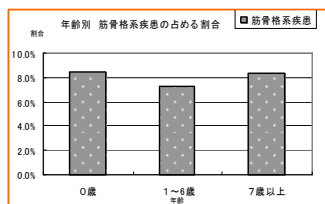
### 消化器…22.6%

胃腸炎、消化管内異物など



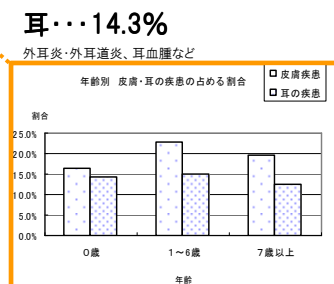
### 筋骨格系…8.5%

膝蓋骨脱臼/膝蓋骨亜脱臼、骨折、関節炎など



### 皮膚…16.3%

腫皮症、湿疹、皮膚炎(アレルギー性)など



※ 2006/10/1～2007/9/30までの1年間に契約を開始した犬、227,876頭を調査  
 ※当該疾病について1頭につき1回以上の請求があれば「発症した犬」とした。  
 疾患の内訳＝当該疾病を発症した犬の頭数／何らかの傷病を発症した犬の頭数合計

**0歳時は**  
**《消化器・呼吸器・皮膚》**  
**《筋骨格系疾患》に、**  
**特に気をつけよう！**

